

六実中学校 令和5年度 全国学力学習状況調査の結果

1, 教科の調査結果に見られる特徴と現状分析

【国語の領域】

- ・全国・県平均との結果を若干下回っている。経年変化から、国語の点数は伸びている。
- ・知識及び技能の「言語の使い方」と「言語文化」に関しては県や国の正答率よりも上回っている。
- ・「話すこと聞くこと」への点数が県や国よりも下回っている。

【数学の領域】

- ・全国・県平均とほぼ同じである。経年変化から、非常に上昇したことがわかる。数学の学習会を定期的に行っていたことが一因だと考える。
- ・「データの活用」に関しての県に比べて非常に上回っている。
- ・「数と式」に関しての分野が県に比べて下回っている。

【英語の領域】

- ・県や全国に比べるとどの領域も下回っている。
- ・「書くこと」の分野が下回っている。また、記述式の問題の正答率が低いことがわかる。
- ・「聞くこと」が県や全国よりは下回っているが、本校では得意な分野だということがわかる。
- ・質問用紙からスピーチやプレゼンテーションなどを行った割合が県よりも大幅に上回っている。

2, 生徒質問用紙の調査結果に見られる特徴と現状分析

- ・規範意識は県や全国よりも上回っている高いが、自己有用感は県や全国よりも若干下回っている。
- ・同じ時間に起きたり寝たりしている割合は県よりも下回っている。
- ・困っていれば助けたり、いじめは良くないと思ったり、人の役に立ちたいと思う割合は県よりも大きく上回っている。
- ・家で計画を立てて勉強している割合は県より下回っている。
- ・学級をより良くするために話し合っている割合は県より上回っている。
- ・ICTを1, 2年生で使った割合は県よりも上回っている。

3, 今後の改善計画

- ・生徒指導の機能を生かした授業、行事や教育活動を通して自己有用感を向上させる。
- ・徹底した生徒理解を基に、様々な場面で教育相談を取り入れ、心の安定に努める。
- ・単元の学習課題を明らかにし、まとめや振り返りを生徒自身の言葉で行う。
- ・様々な学習会を設け、学校環境下での勉強機会を増やしていく。